

# 木の香り漂う心地よい生活

## 工務店で培った経験と技術を グループホーム運営に応用

有限会社オフィス・KPPQ グループホーム「夢楽の園」

工務店として80年以上もの歴史をもつ経験と技術を随所に活かしたグループホーム「夢楽の園」。県産の杉材を使った板倉造りの内外装、OMソーラーシステムによる温度差のない全室床暖房の快適な居住空間、ソーラー栽培でつくった無農薬野菜を食材にするなど、入居者がいつまでも夢と楽しさを持ち続けられる生活空間を提供している。

### 徹底的にこだわったハード面 そこから多くの効果を得る

JR外房線菅田駅から車で5分、のどかな雰囲気と豊かな自然が残る場所に「夢楽の園」がある。2005年11月にオープン、敷地面積は634・00㎡、床面積は19

取締役の松村官治氏



9・92㎡、1ユニット定員9人の小規模グループホームである。同施設を運営する有限会社オフィス・KPPQの親会社は一般住宅などを手がける株式会社松村工務店。同施設の運営を手がけたきっかけはユニークなものだ。「幸せな最期を過ごせる『私が将来住みたい家』をつくりたかった。長年にわたる工務店での実績や経験を活かせるのではないかと思っただのです」(松村官治取締役) 異業種参入ということもあり、当初は介護について右も左もわからず大変に苦労したという。それを逆手にとって、「異業種だからこそできることに挑戦していこう」

と、魅力的な家づくりにこだわった。県産材を使った家づくりを進める「千葉の山を愛する家づくりネットワーク」に加入する同社では、同施設に香り豊かな地元の杉の木を使った木造板倉造りを採用し、壁や床はもちろん、家具にいたるまでふんだんに杉材を使用した。もう一つの大きな特徴は、OMソーラーシステムの採用である。これは屋根に設置したソーラーシステムから取り入れた太陽熱が空気を暖め、その暖気が床暖房やお湯とりとして利用される。さらに同システムには、屋外から新鮮な空気を室内に取り込む機能もあり、

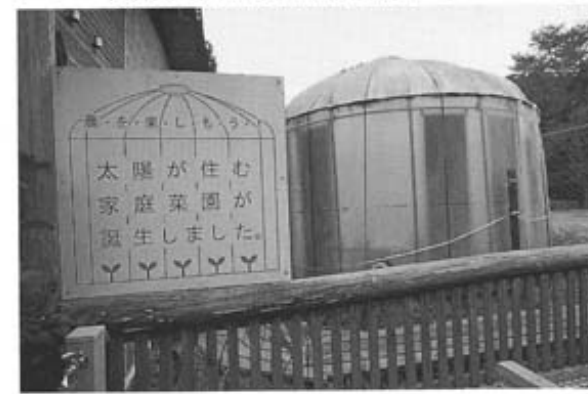
室内はほのかな木の香りが漂う。右奥の白いパイプ状のものは、暖気を送るダクト



居室Bタイプ(10.76㎡)の室内。他にもAタイプ(9.96㎡)がある



庭に設置されたソーラーハウス。一人ひとりの入居者に好きな野菜や植物を栽培するスペースを提供



効果的な換気が行われる。これらの工夫による効果は予想以上に大きかった。松村氏は、「ソフト面はもちろん大切ですが、ハード面にも力を入れたことが良かった」と力説する。心地よい木の香りやぬくもりは、入居者に対して懐かしさや快適さを与えるだけではなく、健康面においても優れた結果をもたらした。

同施設の管理者である田中ひかる氏は、「開設からこれまで2年間、風邪をひかれた入居者が1人しかいません。板倉造りとOMソーラーシステムの相乗効果により、施設内は常に新鮮な空気と一定の湿度、室温が保たれているからだと思えます」と説明する。

魅力的な建築物や環境によって「こういう所で生活したい」「こういう家に親を住ませたい」と入居者やその家族が同施設を見学し、オープン前から入居希望者が殺到。常に満室の状態が続いている。しかし、経営面に関してはまだ課題も残る。「社会福祉法人の認可をとるか、2ユニットにして安定した運営をすべき」との意見もあった。しかし、2ユニットにした場合、床面積の関係で内装制限を受け板倉造り(内装木部)ができなくなる点、小規模で自分の住みたい家をつくりたいということから、あえてこのような運営体制とした。

ハード面におけるイニシャルコストも大きかったが、ソーラーシステムの導入によりランニングコストを軽減させるなど、長期的に安定した運営をめざしている。スタッフも大きかったが、ソーラーシステムの導入によりランニングコストを軽減させるなど、長期的に安定した運営をめざしている。

### 社員制度や日報を採用 職員が働きやすい環境を

介護人材の流動は激しいと言われるなか、同施設でも御多分にもれずこの壁にぶつかった。「以前から話には聞いていたが、これほどまでに人が動くとは想定外でした」(松村氏)と、当時の苦勞を振り返る。そこで、同施設では職員が定着し、気持ちよく働いてもらうためにさまざまな取り組みを行っている。

**職員が働きやすい環境を**

職員が入居者に対して家族同様の永いおつき合いをしてほしいと考える社員制度を採り入れている。本人の希望や業績に応じて積極的にパート職員を正社員に登用している。2007年10月現在、10人の職員のうち6人が正社員として働いている。

また、一般職員は業務日報の他に個人日報を提出している。これは入居者に対してその日感じたことや反省点など思いのままに書いてもらおうと始めた取り組みで、松村氏と管理者、ケアマネジャーの3人が日報にコメントを記載している。それらをすべてファイリングして保存、誰でも閲覧できるようにしている。日報から挙がった内容を毎月行う全職員参加の全体会議の議題にすることもある。これらの取り組みにより、職員同士の意思疎通が図られ、定着率が向上してきたという。

12月には地元の知的障害者を持つ家族の会とNPO法人設立に参加し、同施設の入居者と自閉症患者施設の入居者との交流を図っている。

「今後は地域の医療や身体障害者福祉、精神障害者福祉とのかかわりをいっそう深めたい」と松村氏は意気込みを語る。



有限会社オフィス・KPPQ  
千葉県緑区菅田町2-29  
TEL: 043-291-1055  
FAX: 043-291-1332  
http://www2.bbweb-arena.com/  
yuuraku/

撮影: 関口宏紀